

956-17

昭和46年度 自昭和46年4月1日
至昭和47年3月31日

事 業 報 告
決 算 報 告 書

財団法人 日本常民文化研究所



956-17

昭和46年度事業報告・財産目録・貸借対照表・損益計算書並に損益処分案
は次の通りであります。

昭和47年5月28日

財団法人 日本常民文化研究所

理事長	有賀喜左衛門
理事	河岡武春
"	桜田勝徳
"	渋谷雅英
"	杉本行雄
"	宮本馨太郎
"	宮本常一
"	山口和雄
監事	高木一夫
"	小宮山若木

目次

- (一) 事業報告
- (二) 貸借対照表
- (三) 損益計算書
- (四) 財産目録
- (五) 損益金処分案

(一) 事業報告

昭和46年度は、「民具辞典」の800項目にたいする執筆依頼が一部を除いて終り、原稿作成はかなり遅れているが約245項目がすすんでいる。

「民具論集4」の編集を終ったが、事情により刊行は47年9月の予定で進行している。なお、常民文化叢書はこのほか「南九州の綱引行事」(小野重朗)平行して、9月刊行の予定。

「民具マンスリー」は4巻が終了し、「論集」とともに、大体、軌道にのったと考えられ、民具の調査研究あるいはその組織化に役割を果たした。

地方郷土博物館所蔵民具の「資料化」は、岩手県二戸郡福岡町郷土資料館、新潟県中魚沼郡津南町公民館(ほかに信越秋山郷)、東京都下八王子市郷土資料館について、撮影、計測、聞取りを行った。

なお一時的に、東京女子大学に保管されていた「全国漁業制度資料筆写本」1220冊の返還をうけ、これをもとに「全国漁業制度資料の総合的研究」なるテーマ(研究代表者山口和雄)にて、科学研究費の申請をした。昭和47年より3ヶ年計画(年間200万円)

昭和46年度

貸借対照表

昭和47年3月31現在

公 益 部	收 益 部		勘定科目	借 方 (負債)		計
	借方 (資産)	貸方 (負債)		借方 (資産)	貸方 (負債)	
279,465			什 器 物	279,465		
6,681,519			建 価 証	6,681,519		
35,224,537			有 預 金	35,224,537		
3,562,505		89,253	預 現 金	3,651,758		
921		3,201	元 入 金	4,122		
8,170,718			基 本 財 産	8,170,718		
	800,000		通 積 金		800,000	
	41,761,100		出 版 準 備 積 立 金		41,761,100	
	7,562,997		前 受 費 用 金		7,562,997	
	900,000		繰 上 受 取 金		900,000	
	2,880		繰 上 受 取 金		2,880	
		45,13,199	繰 上 受 取 金	45,13,199		
			繰 上 受 取 金		820,1,637	
			繰 上 受 取 金		24,453	

	228,375		金 金	228,375		
		20,000	金 金		20,000	
	528,000		金 金	528,000		
		824,6090	金 金		824,6090	
53,919,665	53,826,977		金 金	59,281,693	59,073,067	
	3,092,688		金 金		3,092,688	
			金 金	288,4062		
53,919,665	53,919,665		金 金	62,165,755	62,165,755	

減価償却費
 備考 備品 212,275
 建物 669,8600
 2,810
 17,081

昭和46年度

損益計算書

昭和47年3月31日現在

公益部		勘定科目	收益部		計	
損失の部	利益の部		損失の部	利益の部	損失の部	利益の部
516,250円	円	職員給与	1,548,750円	2,065,000円	円	
5,721		旅費	32,419	38,140		
23,074		消耗品費	130,756	153,830		
9,528		印刷費	54,002	63,530		
18,873		通信費	81,572	100,445		
11,739		共益費	66,523	78,262		
5,450		光熱費	30,882	36,332		
433		資料蒐集費	2,456	2,889		
48532		調査費	194,130	242,662		
38524		民具マンスリー	217,170	255,494		
285532		常務書買上費	334,080	285,532		
83,120		労働費	26,950	417,200		
8,050		公租	4,280	35,000		
2,644		課		6,924		

19

21,316		雑費	119,647	140,963		
10,522		電話架設費	41,290	51,612		
19,891		減価償却費	—	19,891		
		繰越在庫高	900,000	900,000		
		地代	—	52,800		52,800
	749,000	株式配当	—	—		749,000
	3,214,052	及び売却	—	—		3,214,052
	23,8876	預金利息	—	—		23,8876
441		支払利息	—	441		
		売上	—	372,845		372,845
1,109,240	4,201,928	小計	3,784,907	4,894,147		5,102,773
3,092,688		当期利益金		3,092,688		
4,201,928	4,201,928	当期損失金	3,784,907	7,986,835		2,884,062
		計				7,986,835

-7-

956-17



昭和46年度

財産目録

昭和47年3月31日現在

公益部

資産の部

什器	70,000円	書棚、事務机、椅子	
備品	209,465	会議用机、椅子、書架キヤビネット他	
建物	6,681,519	第三綱町レヂデンス813号室購入	
有価証券	35,224,537	清水建設 5,270株	445,000円
		東京電力 3,000株	1,893,000
		山一ファイミリー 870口	9,135,000
		山一公社債 1,850口	18,575,000
		山一第1オープン 2,000口	1,774,000
		協同国際投資信託 100口	1,050,000
預金	3,562,505	ワリコー(割引債券)	2,352,537
		第一勧業銀行銀座支店 定期預金	500,000
元入金	8,170,718	協和銀行麻布支店	2,505,000
		" 普通預金	557,505
		収益部運営資金として元入	

負債の部

基本金	800,000	第一勧業銀行銀座支店 定期預金	500,000
通常財産	41,761,100	清水建設株券2,000株	300,000
積立金	7,362,997	前期より繰越分	
出版準備積立金	900,000	既往年度益金繰入れ	
前受費用	2,880	益金中より割設	
		山一公社債 3/24~4/18 利息の未経過分	

収益部

資産の部

項	金	89,253	協和銀行 麻布支店 普通預金	61,000
繰越損	金	4,513,199	港区三田台郵便局 振替貯金	28,253
棚卸在庫	高	528,000	既往年度に於ける損失金繰入れ額	
仮払	金	228,375	既往刊行図書残部時国家文書他20種	
負債の部			民具辞典原稿料	
元受	金	8,201,637	運営資金として公益部より元受	
預り	金	24,453	46.7~3月源泉所得税	
借入	金	20,000	河岡氏より一時借入	
		38,287,446	正味財産	

956-17

昭和46年度

損益金処分

昭和47年3月31日現在

公 益 部
当 期 益 金 分

3,092,688円

出版準備積立金へ繰入

3,000,000円

積立金へ繰入

2,792,688円

計

3,092,688円

差引残額なし

-10-

収 益 部

当 期 損 失 金

2,884,062円

繰越損金に繰入

2,884,062円

差引残額なし

-11-

決算報告書と出納諸帳簿を照合いたし相違ないことを証明します。

昭和47年5月25日

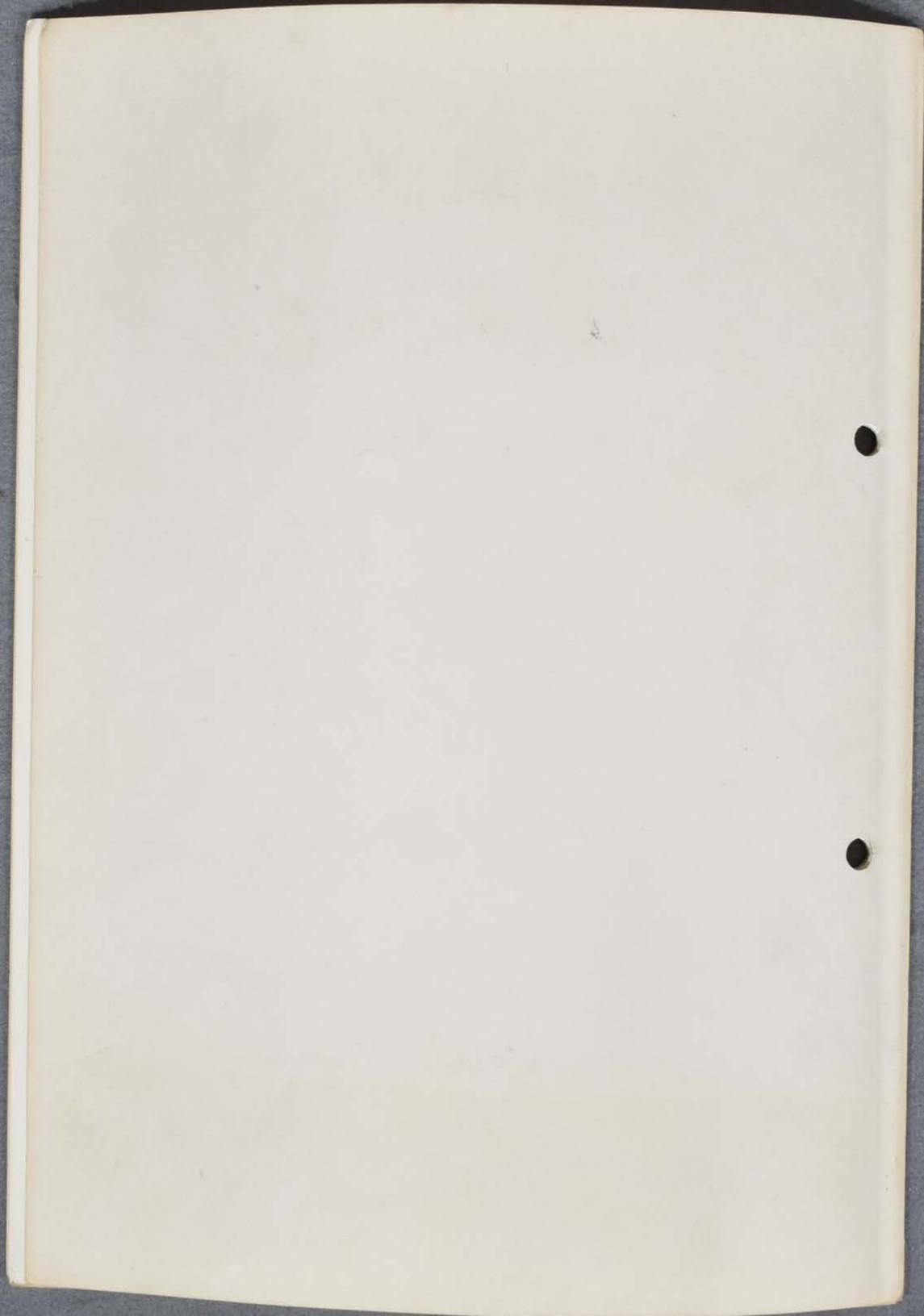
高 木 一 夫 印

小 宮 山 若 木 印

956-17



956-17



956-7

昭和47年度

事業計画
収支予算書

財団法人 日本常民文化研究所



(一) 事業計画

昭和47年度は「民具辞典」を完成させること、定期の編纂刊行としては、民具マンスリー、民具論集など常民文化叢書の編纂刊行をひきつづき行う。また戦前のアチックミュージアム彙報ノートを「日本常民生活資料叢書」(全24巻別巻1)にて、三一書房より本年9月から、約1年半の予定にて刊行する。

なお、昨年秋に東京女子大学より返還をうけた「全国漁業制度資料筆写本」の整備および1部内容目録化を行う。

I 「民具辞典」の編纂、「民具マンスリー」

「民具論集」の編纂刊行

民具辞典は、800項目のうち、約3分の1の原稿が集まったが、残り分を年度内に完成させる。なお収載写真、図版の選定、作成を一部始めている。「民具マンスリー」は、12ページに増頁し、民具の方法をふくめた基礎的な研究の推進、あるいは情報提供など、ようやく軌道にのりはじめた。本年は、会員の拡大をはかりたい。

「民具論集」4集は予定より若干遅れて刊行は47年度にかかる。民具研究の本格論文集として、主たる研究の担い手である、地方在住研究者に、積極的に発表の場を提供し、研究所の年報として継続する。

II 地方郷土博物館所蔵民具の「資料化」

地方郷土博物館所蔵の民具を対象として、その資料化を行なうことは、本年で3年目である。4館程度、1館平均300点、年間約1,200点の予定。

III 民具の委託研究制の実施

民具研究は、民間の新しい学問で、現状では、研究者個々についても、まだ明確なテーマと方法がないと云ってよく、成行きにまかされている。これを計画・総合化するために、「委託研究制」を設け、民具研究の重要な担い手を選び、テーマを明確化し、調査研究プランをもたせる必要がある。その実施をはかりたい。

VI 「全国漁業制度資料」の整備および内容目録化

東京女子大学に一時保管されていた「全国漁業制度資料筆写本」1220冊の返還をうけたので、とりあえずカード化による全体把握と、1部内容目録化をはかる。科学研究費が交付されれば、「全国漁業制度資料の総合的研究」をおこなう。

V 「日本常民生活資料叢書」の刊行

戦前のアチックミュージアム彙報・ノート85冊を、全24巻別巻1（平均800頁）に編集、三一書房より、9月から約1年半の予定にて刊行する。

昭和47年度収支予算

収入の部

区分 項目	予算額	備考
定期預金利息	270,700	第一勧業銀行銀座支店50万円 協和銀行麻布支店250.5万円
株式配当	2,191,000	清水建設株式5270株ほか注
出版物売上金	300,000	
委託費	0	
寄附金	200,000	
印税	3,000,000	
前年度繰越金	0	
計	5,961,700	

注) 東京電力3千株 山一第1オープン2千口 山一ファミリー870口
山一公社債1,850口 山一協同国際投信100口
ワリコー250万円(額面)

956-7

支出の部

項目	区分	予算額	備考
役員	給	1,270,000	
職員	給	1,760,000	
交通	費	260,000	交通費補助を含む
会合	費	40,000	
消耗品	費	30,000	
印刷	費	30,000	
民具マンスリー		300,000	印刷費ほか
通信	費	80,000	電話料ほか
共益	費	43,200	
光熱	費	30,000	
資料蒐集	費	200,000	図書資料、写真代
調査旅	費	350,000	
労賃		100,000	
委託研究	費	300,000	
租税公課		8,000	
雑費		50,500	
常民文化叢書買上		500,000	民具論集(年報)ほか
計		5,551,700	
予備費		610,000	
合計		5,961,700	



956-7

